

竣工式 小川英次理事長挨拶

本日はご多忙の中、新1号館ならびに新11号館、工学部実験棟の竣工式にご臨席いただきまして、誠にありがとうございます。

ここに、こうして新館3棟が無事に竣工し、皆様にご披露できますのも、ひとえに日頃からご支援、ご協力いただいております関係の皆様、また、施工に携わってくださった「銭高組、三井住友建設共同企業体」の皆様の尽力の賜物と、心から感謝申し上げます。

梅村学園90年の歴史におきまして、今回、建設業者選定審査委員会を経て、「JV」方式で事業を行うのは初めてのことでした。東日本大震災の4か月後の着工になったこともあり、正直、心配したこともございます。しかし、資材の調達や建設要員の確保など、多くのご苦勞を、見事な2人3脚で乗り切っていただき、例年にも増して、晴れやかな思いで新年度を迎えられますこと、改めて御礼申し上げます。

また、1年8か月の工事期間中、近隣の皆様方に大変ご迷惑をおかけしましたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

さて、旧図書館と旧本館の跡地に建設された新館3棟は、名古屋キャンパス整備計画「C—EAST開発計画」の総仕上げと位置付けられ、この完成によって、キャンパスは既存の施設・設備と効果的に融合し、より快適な、学びと交流の場になりました。

教育研究や学生支援の一層の充実が図られたわけではありません。CO₂の排出量を削減するための太陽光発電システムの導入や、地下120メートルの井戸を掘り、震災など非常時における近隣のライフラインも確保されました。環境対策に心を砕いた、クオリティの高いキャンパスになりました。

間もなく、ここは、開設された工学部機械システム工学科と電気電子工学科の新入生を含む8千人余の学生で溢れ返ります。山手通りの景観と新1号館周囲の新たな空間を見た時の学生たちの様子が、目に浮かぶようであります。

また、今日という日は、2014年の開学60周年に向けた、キャンパス整備の区切りの日であります。同時に、文系・理系の学部を一つに併せ持つ「知」の拠点として、新生・中京大学の始まりの日でもあると思っています。一層の内

部充実を図るべく、教職員が一丸となって、改革に取り組んでまいり所存ですので、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご臨席の皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げます、私の式辞とさせていただきます。

皆様、本日は誠にありがとうございます。